

新型コロナウイルス感染症の5類移行後の当院の対応について

2023年5月8日より新型コロナウイルス感染症は、これまでの感染症法における2類相当から5類への正式な移行となりました。

移行に伴い、社会的にはマスクの自由化や濃厚接触者の定義の撤廃、療養期間の短縮などの変更が行われております。しかし、5類感染症への移行とウイルス特性の変化はイコールではなく、COVID19のウイルス特性にはなんら変わりはありません。治療法も初期よりも発達し、ウイルス毒性も低下したことから重症化は以前と比較して低率であると感じております。

しかし、当院も複数回の院内感染から、その感染力の強さは、インフルエンザなど他のウイルス性疾患に比べて強いことも経験しております。

無症状陽性者も多く存在しており、医療機関におけるゼロコロナは達成不可能と考えておりますが、それでも最大限の院内感染対策の努力を続ける必要があります。

病院にはCOVID19以外の傷病による病的弱者がたくさん通院・入院されています。抗がん剤で免疫力が低下している方、慢性疾患で臓器不全がある方、ご高齢で基礎体力が低下している方など、少しの変化で生命をおびやかされてしまう方がたくさんいらっしゃいます。その方たちの健康と命を守ることが、地域における同樹会病院の役割でございます。

そのためには、利用される皆様におきましては引き続き院内でのマスク着用の義務化につきましてご理解のほど何卒よろしくお願いいたします。

また、当院の入院病棟におきましては、COVID19陽性の方の治療を行う感染病床がございます。そのため、同一病棟内にCOVID19陽性の方が入院治療をされている場合がございます。感染病床エリアでは、感染対策は徹底して行なっておりますので、ご安心くださいませ。

同樹会病院は地域の皆様に安心と安全を提供できるよう、感染対策を行い、診療にあたって参ります。今後ともよろしくお願いいたします。

医療法人 同樹会 小牧病院
病院長 富田 達也